

GXリーグについて

2022年4月27日

経済産業省 環境経済室

GX（グリーントランスフォーメーション）リーグの概要

【趣旨】 2050年のCN実現を見据えて、経済と環境の好循環を作り出す観点から、**脱炭素にいち早く移行するための挑戦を行い、国際ビジネスで勝てる企業群**を生み出すための産官学の仕組み。

【GXリーグでの取組】

- ① **2050年カーボンニュートラルのサステイナブルな未来像を議論・創造**
 - ◆ 産官学民の幅広いステークホルダーが、ワーキンググループを構成して、未来像とそこに向けた経済社会システムの移行像を示す。
(例：生活者視点のサステイナブルな経済社会システムのあり方、2050CN時代の企業の役割)
- ② **カーボンニュートラル時代の市場創造やルールメイキングを議論**
 - ◆ ①未来像を踏まえ、新たなビジネスモデルを検討し、市場創造のためのルール作りを行う。
(例：CO2ゼロ商品の認証制度 等)
- ③ **カーボンニュートラルに向けて掲げた目標に向けて自主的な排出量取引を行う**
 - ◆ 自ら高い排出量削減目標を自主的に掲げ、その達成に向けて、**カーボン・クレジット市場**を通じた自主的な排出量取引を行う。

【参画企業に求められる取組】

- ① **自らの排出削減（目標設定、挑戦、公表）**
 - ◆ 2050CNと整合的な2030年削減目標に向け挑戦。目標未達時は、直接排出（国内分）に関し排出量取引の実施状況を公表
 - ◆ 国の削減目標（46%）より野心的な目標を奨励（超過削減分は取引可能）
- ② **サプライチェーンでの排出削減**
 - ◆ 上流の事業者に対して削減の取組支援を、下流の需要家・生活者に対して、CFP表示等、「環境価値」の提供・意識醸成を行う
 - ◆ サプライチェーン排出に関する定量的な目標設定を奨励
- ③ **グリーン市場の創造**
 - ◆ 多様な主体と、革新的なイノベーション創出に向け協働し、新製品・サービスを通じて貢献。
 - ◆ 自らのグリーン製品調達・購入を奨励

【スケジュール】 2月1日(火)に「基本構想」を公表し、**440社が賛同**。この「基本構想」を基に、GXリーグの本格稼働に向けた議論を2022年4月から開始。2022年度後半に実証試験を行い、**2023年4月以降からの本格稼働を目指す**。

**賛同企業によるCO2排出量は日本全体の約28%。
家庭部門等への電力供給に伴う排出を加味すると、4割以上と見込まれる。**

| | CO2排出量 | うち、賛同企業の割合 |
|---|---------------|-------------|
| 日本全体 | 約11億4,600万トン* | 約28% |
| (電力会社が家庭等に供給している電力に伴う排出を加味すると、 4割以上 をカバー。) | | |
| 賛同企業合計 | 約3億2,000万トン** | - |

*2018年度の温室効果ガス排出量（確報値）より

**2018年度の温対法に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度により集計された各社排出量を積み上げ

賛同企業からの反応・意見

<ルールメイキングの実施希望事項>

| | |
|-----------------|--|
| 部素材の CO2ゼロ表示 | ・ 個別製品のCN価値表示のあり方と個別基準策定 |
| | ・ マスバランスアプローチ導入によるCO2削減やサーキュラーエコノミー加速のためのルールメイキング・社会実装に向けた取組 |
| カーボン クレジット | ・ カーボンリサイクルやCCUSでのクレジットの考え方の議論 |
| | ・ 炭素削減価値の新たな創出の仕組み（自然由来クレジット、ブルーカーボン等） |
| 金融市場 での評価 | ・ 公平・公正な制度設計（より高い削減目標を設定する企業へのインセンティブ付与、産業ごとの最低削減率の設定等） |
| | ・ 行動変容を起こす取り組みに対する投資家の理解の促進 |
| 削減貢献量の 表示・開示 | ・ CO2排出削減貢献量やScope 3の考え方、ルールのリ・デザイン |
| | ・ 削減貢献の価値を製品・サービスに反映する方法を検討する場への参加 |

GXリーグの設立にむけた準備スケジュール

2022年度

2023年度

| | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|

4/1 賛同企業公表

準備期間

① 賛同企業による、ビジネス創造のための未来像の対話

2050CN実現に向けて、企業としての行動指針策定や賛同企業によるビジネス機会の発見のため、未来洞察ワークショップの開催、未来シナリオや未来年表の作成等を行う。

実証準備

- ① 各賛同企業 + 事務局における、“互いを知る”ためのコミュニケーション
- ② 各賛同事業社からの具体的な取組実施要望事項の収集を通じて、準備期間も含めた1年間の具体的な活動イメージを提示

② 市場創造のためのルール形成の準備

まずは、2～3のWGを賛同企業からの発案を受け入れつつ設置し、成功モデルの構築に向けた議論の実証

③ 自主的排出量取引の準備

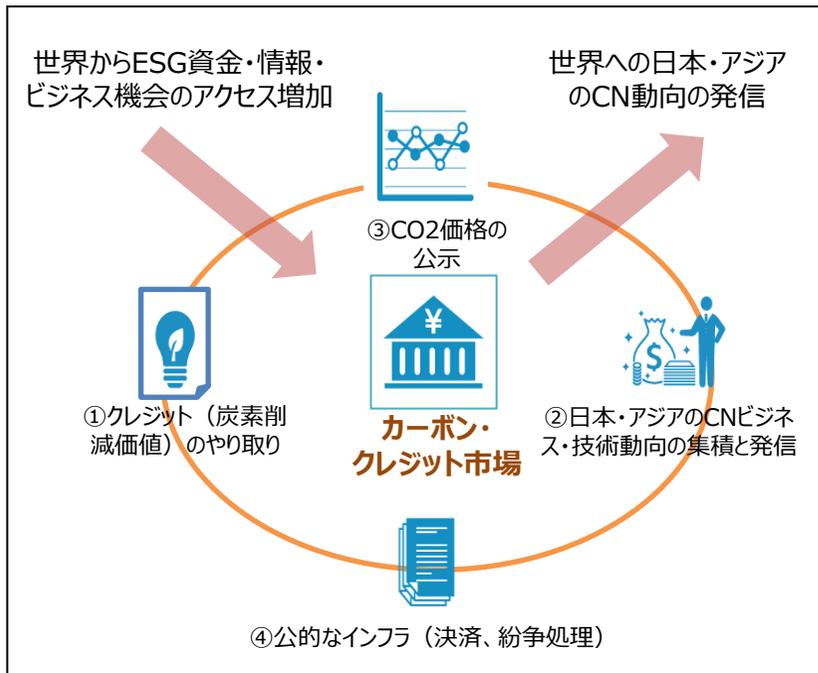
自主的な排出量取引の実施に向けたルールメイキング

本格稼働期間へ移行

(参考) カーボン・クレジット市場の創設

- カーボン・クレジット市場に関しては、国内で流通するJ-クレジット、JCM等のクレジットが、価格公示される形で売買される市場であると同時に、世界のESG資金を誘導し、脱炭素時代の情報ハブを日本に引き込む動きとして、取り組む必要がある。
- 世界でのカーボン・クレジット市場の競争を踏まえて、あるべき姿を整理するとともに、2022年度の実証実施に向けて、市場としての具体的な機能や取引参加者に係る論点の整理を行う。

カーボン・クレジット市場（イメージ）



市場の基本設計に係る論点と機能のイメージ図（例示）

【取引参加者】

- ・ トップリーグ参加企業の取扱い
- ・ 仲介業者の取扱い

【売買機能に係る論点】

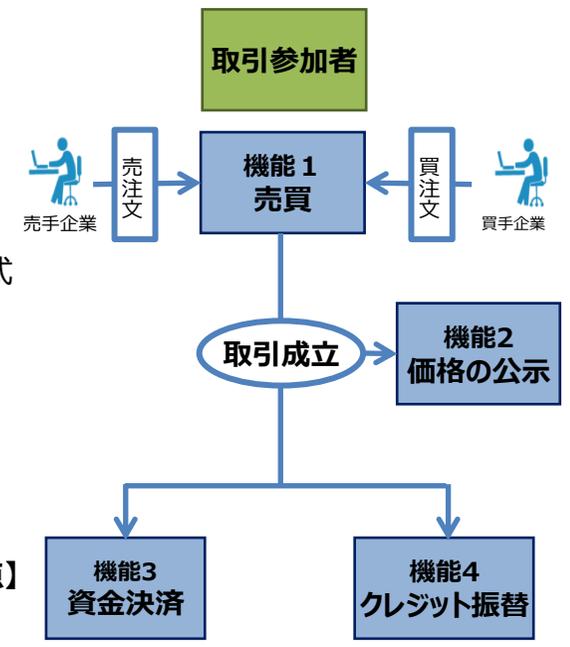
- ・ 市場で取り扱う対象クレジットの範囲
- ・ クレジットの約定方式
 - ザラバ方式、マーケットプレイス方式

【価格公示機能に係る論点】

- ・ 公示する価格の種類
 - 約定価格、4本値、ベンチマーク
- ・ 公示の場所・頻度
 - 都度、毎日、毎週
 - HPでの掲示、アプリによる配信

【資金決済、クレジット振替機能に係る論点】

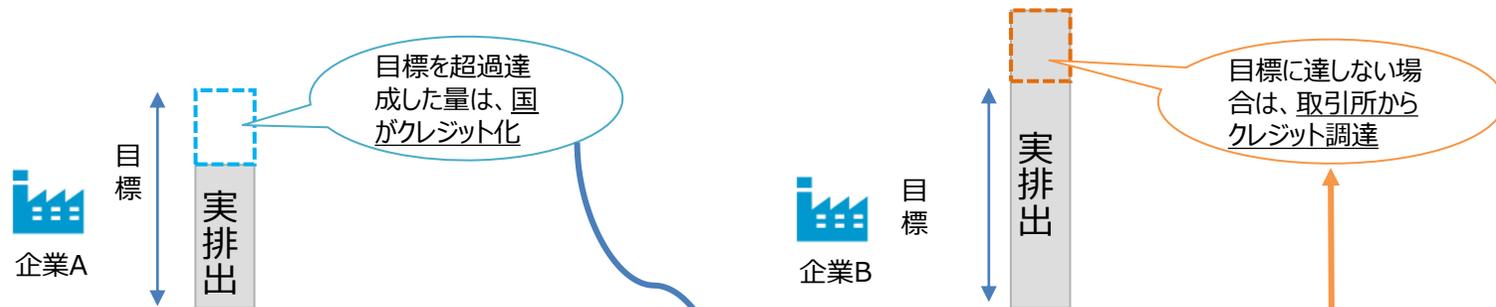
- ・ 取引の信頼担保手段



(参考) GXリーグとカーボンのクレジット市場の関係

「GXリーグ」(企業が自主的に参加)

- ◆参加企業は、目標・計画の策定と、市場を通じた排出量取引を行う。
 - ①2050CNと統合的な2030年目標と計画を策定し、資本市場へ開示 (プレッジ&レビュー)
 - ②実践 (毎年、国は進捗状況を取りまとめ公表)
 - ③目標達成のための排出量取引



「カーボン・クレジット市場」(取引所)

| | | |
|---|-------------------------------|-----------------|
| 企業由来 | GXリーグ参加企業による削減価値クレジット | |
| プロジェクト由来 | J-クレジット (省エネ、森林保全等) | JCM (海外での削減寄与分) |
| | 質の高い海外ボランタリークレジット (国際標準クレジット) | |
| ※DACやブルーカーボン (藻類等) などの、新技術や吸収系のクレジットも視野 | | |

- ◆国際的なクレジット取引の標準化の動きとも連動し、国際的なクレジット市場を整備。
- ◆取引所は、取引価格を公示 (炭素価格としてのシグナルの発信)。
- ◆GXリーグ非加盟企業は、プロジェクト由来クレジットについて、売買が可能。